

(Ⅱ) 各研修会の概要

◆第1回合同研修会

- 1 **趣 旨** 県内で実施される「学校支援地域本部」「地域未来塾」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援体制等構築」「学ぶ力を育てる土曜学習支援」に関わる市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。
- 2 **主 催** 滋賀県教育委員会
- 3 **参加対象** 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」実施市町担当者、上記事業の未実施市町における参加希望者
- 4 **日 時** 平成28年5月18日（水）13:45～17:00
- 5 **日 程**
 - 行政説明
 - ・各事業の概要・趣旨
 - ・本年度のスケジュール
 - ・事業推進にあたっての留意点
 - 講演
 - 演題：「今後の学校・家庭・地域の連携について」
 - 講師：武井 哲郎 氏（滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」推進協議会委員、立命館大学 准教授）
- 6 **場 所** 県庁本館2-B会議室
- 7 **参加者数** 23名
- 8 **概 要**

行政説明では、県担当者より、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の概要・趣旨等の説明後、補助金事務の流れや本年度年間研修計画等のスケジュール、コーディネーター等の謝金単価や補助対象外経費等の取扱い、事業実施にあたっての留意点等について、質疑応答も含めて説明を行った。

講演では、「なぜ、学校・家庭・地域の連携なのか?」「何が、学校・家庭・地域の連携なのか?」「どのように、連携するのがよいのか?」を柱として、お話しいただいた。学校を取り巻く現代の課題や現状を踏まえ、事例を取り上げながら、主に行政担当者の関わり方や心構えについてお話しいただいた。



○参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールの拡大、それに伴う議論の方向性についての課題と解決策など、事例を参考にとても分かりやすかった。
- ・コミュニティ・スクールと学校支援地域本部、学校運営協議会の関係が全く分かっていなかったのので、少し理解できた。連携・協働が、目的にならないよう、各事業を進める上で大変良かった。
- ・しんどい子どもを真ん中に置く視点、その仕掛けこそが、真にコミュニティ・スクールのこれからのあり方であると捉えることが改めてできた。

◆第2回合同研修会（「第1回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催）

- 1 **趣 旨** 学校支援地域本部やコミュニティ・スクールをはじめとした、学校と地域の連携・協働体制の構築を一層推進するため、具体の方策等について、関係者がともに考える機会として、フォーラムを開催する。

2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 各市町担当職員、公立小・中学校教職員、県立学校教職員、学校支援地域本部関係者、学校運営協議会関係者、学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等

4 日時 平成 28 年 6 月 24 日（水） 13：15～16：45

5 日程

○講演（話題整理）

テーマ：「地域の子どもを育てる取組の現状と、連携・協働体制の今後のあり方について」

講師：高木 和久 氏（びわこ学院大学 准教授）

谷口久美子 氏（NPO法人CASN 理事長）

○講演

演題：「地域学校協働本部を見据えた、複数事業の総合化・ネットワーク化」

講師：高木 和久 氏（びわこ学院大学 准教授）

○情報交換会 「各市町における現状と課題について」

6 場所 県庁新館 7 階大会議室

7 参加者数 62 名

8 概要

NPO法人CASN 理事長 谷口久美子 氏より、「子ども食堂」「トワイライトステイ」等の実施の際、現場の課題や教育と福祉の連携の重要性など日頃感じておられる現場の様子をお話いただき、それを受け、びわこ学院大学 准教授 高木和久 氏がその内容を一般化しつつ、現場と行政、学校との連携の必要性についてお話しいただいた。実際に事業を展開する際の課題や、今後どのような連携、協働が必要かについて考えるよい機会となった。

話題整理の講演に続いて、「地域学校協働本部を見据えた、複数事業の総合化・ネットワーク化」というテーマで、高木和久先生より講演をしていただいた。「地域の子ども活動の弱点」やこれからの国の施策の動向、各事業間の連携の重要性、自主財源の確保の仕方などについて詳しくお話しいただいた。

講演の後、グループに分かれて、「各市町における現状と課題について」というテーマで講演の内容も含め、情報交換をしていただいた。参加者からは、日頃感じておられる課題や市町の現状について、活発な意見を出し合っていた。

○参加者のアンケートより

- ・ボランティアから、“協働”へ意識を高めておられる方は、子どもの変容を目の当たりにした経験を持っておられる方々であることが分かった。
- ・ボランティアの取組→学校支援→コミュニティ・スクールへと発展していくイメージを持つことができた。
- ・コーディネートの仕方には様々な形があることが分かりとても参考になった。
- ・小中高生が、夏休みの絵画や冬休みの書道でつながっている地域の取組の話聞いて素晴らしいと思った。
- ・本音で話し合える場となった。懇親も深まり、お互い明日から更に活動に専念していこうという気持ちになった。



◆第3回合同研修会

1 趣 旨 県内で実施されている「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に関わるコーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーター等の事業関係者が一堂に会し、具体の事例を通じて子ども理解ならびに保護者の思いに寄り添う接し方のスキルアップ等の資質向上を図るとともに、県内における各事業の効果的な取組を推進する。

2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 学校支援地域本部事業関係者、地域未来塾事業関係者、放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援関係者、子育て支援機関関係者、土曜日の教育支援活動関係者、各市町行政関係者 等

4 日 時 平成28年8月26日（金）13：30～16：45

5 日 程

○実践紹介

SMAP（Shiga Mental Adventure Program〈しが「心の冒険」プログラム〉アクティビティプログラム）による人間関係づくり

○講演・演習

演題：「子どもや保護者に寄り添う対応について」～子どもの言動の背景を理解する～

講師：滋賀文教短期大学 准教授・滋賀県スクールソーシャルワーカー 小林 美保子 氏

○情報交換

「子ども・保護者との関わり方について」をテーマに、小グループに分かれて情報交換

6 場 所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 16名

8 概 要

まず、SMAPによる人間関係づくりのプログラムを体験いただいた。いくつかのアクティビティを行うにしたがい、始めは緊張していた参加者の心がほぐれ、自然と会話や笑顔が増えていった。

講演・演習では、日々の活動の中で接する子どもや保護者に寄り添う対応について、コミュニケーションのとり方や気を付けなければいけないこと等、「福祉的な視点」から、具体の事例を挙げて分かりやすく御説明いただいた。

情報交換では、小グループに分かれて、日々の取組の中で思っておられることや相談したいこと、うまくいった事例等について、話し合いを行った。

○参加者のアンケートより

- ・講師のお二人がとても素晴らしい方で、参考にできる内容をたくさん教えていただいた。
- ・小林先生の話はわかりやすく、他にも聞きたいことがいろいろ出てきた。子ども、親を含めてその言動から背景を見ていかなければならないと思った。
- ・子どもの言動には何か理由がある。それが何であるかに気付き、適切な対応ができるよう、今日教えていただいたことを実践していきたい。



◆第4回合同研修会（「第2回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催）

1 趣 旨 「学校支援地域本部とCSが連携した『地域とともにある学校』のあり方に関する研究」（文部科学省委託事業）等に取り組みされている講師による、先進的な全国の事例などを踏まえた講演をとおして、保護者や地域住民等との協働による学校づくりの推進に資する現行の制度や地域と学校の連携・協働体制による効果などについて、関係者がともに考え理解を深めることで、地域と学校の連携・協働体制の構築を一層推進する。

2 主 催 滋賀県教育委員会

3 参加対象 各市町担当職員、公立小・中学校教職員、県立学校教職員、学校支援地域本部関係者、学校運営協議会関係者、学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等

4 日 時 平成28年10月28日（金） 13:00～16:45

5 日 程

○事例発表

演 題：「湖南省立石部小学校におけるコミュニティ・スクールの取組について」

発表者：湖南省立石部小学校 校長 柘植幸隆 氏

（H27年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰受賞）

○講 演

演題：「地域学校協働活動を生かしたコミュニティ・スクールの進め方について」

講師：広島経済大学 教授 志々田まなみ 氏

○グループワーク：熟議「地域と学校の連携・協働について」

6 場 所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 96名

8 概 要

事例発表では、石部小学校におけるコミュニティ・スクールの組織と運営や学習支援委員会など特徴的な取組について、御説明いただきました。

講演では、これからの学校と地域の連携・協働の在り方や全国における効果的なコミュニティ・スクールの事例などを交え、学校を核とした地域づくりの有効性、コミュニティ・スクール導入の実際の流れなどを、わかりやすく説明いただきました。

○参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールとしてしっかり組織がつけられていて、ボランティアや地域の各団体との連携もされており素晴らしい。
- ・コミュニティ・スクールや学校支援地域本部のことについてそれぞれのメリットが分かった。社会総がかりでの教育の実現は難しいが、チーム学校という共通理解をもち、緩やかなネットワークを形成していくことの大切さがわかった。
- ・小中学校長OB、高校教諭、すでにコミュニティ・スクールを始められている市の方など様々な立場の話が聞けた。一つの課題について、一緒に考える時間を持つことが大切だと感じた。



◆第5回合同研修会

1 趣 旨 「学校支援地域本部」等に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、本年度の各市町における取組や「地域とともにある学校づくり」の取組を通じて、地域の将来を担う人の育成を社会全体で支える体制づくりや今後の推進方策について、ともに学ぶ機会とする。

2 主 催 滋賀県教育委員会

3 参加対象 各市町担当職員、各幼・小・中・高校学校教職員、学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者、土曜日の教育支援活動関係者、学校運営協議会関係者など

4 日 時 平成29年 1月27日（金） 13:20～16:40

5 日 程

○事例発表

- 「学校支援地域本部」の報告 草津市教育委員会事務局生涯学習課 高橋 正樹 氏
草津市立渋川小学校地域協働合校コーディネーター 澤村 忍 氏
- 「放課後子ども教室」の報告 米原市こども未来部子育て支援課 横田 勝也 氏
- 「家庭教育支援活動」の報告 湖南市教育研究所 伊藤 照男 氏
- 「土曜日の教育支援」の報告 東近江市教育委員会事務局生涯学習課 斎藤 研治 氏
東近江市蒲生地区地域教育協議会 綾 康典 氏

○講 演

演題：「地域とともにある学校づくりの充実」

講師：福岡教育大学教職大学院 教授 森 保之 氏

6 場 所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 112名

8 概 要

「地域とともにある学校づくり」の充実において、①なぜ、学校と地域の連携・協働なのか ②学校・家庭・地域の連携・協働推進事業等の現状と課題、今後の方向性 ③コミュニティ・スクールの推進 ④地域とともにある学校づくりの充実ーコミュニティ・スクールと地域学校協働本部等との一体的・効果的な推進ー ⑤コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの推進上の留意点について説明いただき、「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けての視点を認識することができた。また、各事業の事例発表から、取組の成果や課題について講評いただき、今後の方向性を学んだ。



○参加者のアンケートより

- ・事例発表では、それぞれの地域で特徴のある取組をされていて、非常に参考になった。今日聞いたことをこれからの教室運営に生かしていきたい。
- ・地域コーディネーターとして、自分の地域をよく見て何が必要なかを把握し、スムーズな連携がとれるようアンテナを張っていききたいと思う。
- ・コミュニティ・スクールと学校支援地域本部の関係やあり方がよく理解できた。
- ・講演からたくさんの示唆を得ることができ、市のビジョン、校区のビジョンづくりに生かしていけると思った。